

「自立活動」 学習指導案

1. 日時 平成27年 6月

2. 場所 教室

3. 学部・学年・組 高等部 第2学年

4. 単元名 小グループによるコミュニケーション指導
『こんなときどう思う？どうする?』
円滑なコミュニケーションができるためのSST（現場実習に向けて）

5. 単元目標

「6 コミュニケーション」の領域のうち、(1) コミュニケーションの基礎的能力 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する内容において以下のスキルの獲得を目標とする。

- ・表情や身振りなどを用いて意思のやりとりするスキル
- ・場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うスキル
 - ①話し手の顔をみて、話を聞くことができる。
 - ②話し手の顔をみて、会話することができる。
 - ③SST 学習後、それぞれの立場を体験し小グループで感想を述べる。
 - ④SST 学習を通して、人への適切な関わり方が理解し、他者に伝えることができる。

6. 生徒観 略

7. 教材観

他者とのコミュニケーションの活動に課題がある生徒にとって、話し方や人への関わり方のスキルを獲得することは重要である。コミュニケーションを円滑に行うための指導方法はいろいろあるが、このグループではSST(Social Skills Training)を学習に取り入れ、授業を進めた。SSTは、『自分の考えや気持ち、相手に対する要求などをもっとうまく伝えられるように、また実生活で悩んだり困難に感じたりしていることを、実際に演じながら練習することができる』教材である。そのため生徒にとって、教員たちが演じるやりとり(寸劇)を客観的にみるため、それぞれの役柄の気持ちが理解しやすく、また実際に演じてそれぞれの役柄の気持ちが体験できるなど、特に就労に向けてのコミュニケーション力を高めるために、有効な教材である。

8. 指導観

現場実習などで、基本的なコミュニケーション(挨拶や返事等)や各場面で適切な対応が求められる高等部では、実習先において必要性の高いスキルを複数ピックアップし、シミュレーションを通して学習・習得する必要性がある。

以下の単元(SST 寸劇)を通して、まず教員が様々なやりとり場面を演じて見せる(寸劇)。授業の進め方の工夫をすることにより必要性の高いスキルを効果的に身につけることができる。

- ①寸劇はできるだけ生徒が理解しやすいように、簡単なセリフや言葉を用い、簡潔に行う。
- ②生徒には、教員の行う寸劇をみて、どのようなことでもいいので一人ひとり感想を発表するように促す。発表が難しい生徒にはヒントや選択などの援助を行う。
- ③教員の行った寸劇を、生徒も行う。コミュニケーションの寸劇なので、どちらの役も体験し、相手の気持ちが理解できるようにする。
- ④人前で寸劇を演じた達成感を得られるように言葉かけ等を行う。

9. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
- 相手の顔をみて、挨拶や返事ができる。 - 教員の行う寸劇に最後まで注目できる。 - 寸劇で、どちらの役もその人の立場で演じることができる。	- 教員の寸劇をみて、不適切な行動に気づくことができる。 - 不適切な行動を発表できる。 - 適切な行動を発言できる。 - 適切な行動を演じることができる。	「すみません。今、ちょっといいですか」「ありがとうございます」の『魔法の言葉』を使うことができる。	- 説明を聞くときは教員の顔をみることができる。 - 寸劇では相手の顔をみることができる。 - 普段の会話の中でも、相手に話しかけるときは「すみません。いまちょっといいですか。」「ありがとうございます」と言うことができる。

10. 単元の指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第一次	1	自己紹介(みんなの前で自己紹介する)	○	○		
	2	『友だちと話をしているのに、相手を見ずに漫画を読んでいる』ことについて考えよう	○	○		
第二次	3	『友だちからの誘いを上手に断る方法』		○	○	
	4	『もし実習先の上司から話しかけられたら…』(挨拶編)		○	○	
	5	『もし実習先の上司から話しかけられたら…』(返事編)		○	○	
第三次	6 本時	『用事をしている人へ話しかける方法(魔法のことば)』(急用)		○	○	
	7	『魔法のことば』を活用して、実習先の上司に報告しよう!		○		○

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

(場面を実習先に設定)

- ・実習先で困ったときに、会社の人に、「すみません。ちょっと今、いいですか？」の言葉かけをしたあとに、内容を伝え、最後に「ありがとうございます(した)」とすることができる。
- ・『魔法のことば』を覚え、活用できる。

(2) 本時の評価規準

- ・寸劇をみて、不適切な行動がわかり、発言できる。
- ・『魔法のことば』(「すみません。今ちょっといいですか。」「ありがとうございます(した)。)」を寸劇で使うことができる。

(3) 本時で扱う教材・教具

教員作成のシナリオ、 『Aさん』『会社の人』の首かけ札

(4) 児童生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のてだて等	評価規準
10分 導入	・挨拶 ・出席確認 ・授業を受けるときの約束 束事を確認する。	・挨拶は、生徒〇〇が行うよう言葉かけする。 ・挨拶時、椅子を机の中に入れ、立っているか確認。 ・出席確認では、教員の顔を見て返事しているか確認し、見ていない時は、言葉かけ等で教員の顔を見るように促す。 ・授業を受けるときの約束事(話し手の顔を見る、会話するときは相手の顔を見る)を確認する。	
25分 展開	①「困ったなあ。どう伝えよう？」の寸劇を見る。 ・見た感想を発表する。 ・どのような行動をすればよいか考え、発表。 ②寸劇で、どちらの役柄も演じそれぞれの気持ちを体験する。	・劇は、生徒が理解しやすいように、できるだけ短く、簡単な言葉を使って行う。 ・二人ずつ順番に演じる。(シナリオをもとに) 演じるのが難しい生徒には、サブの教員が援助する。	・寸劇で、会社の人に何も言わずに飛び出すと、相手を困らせるということが理解できる。 ・『魔法のことば』を使うと、相手とスムーズに話ができることが理解できる。

5分 ま と め	・『魔法のことば』を一人ひとり確認する。 ・挨拶	・発話しにくい生徒には、サブの教員がついて、一緒にいうなどの工夫を行う。 ・生徒〇〇に挨拶を促す。 ・椅子を机の中に入れて立っているか確認する。	・『今ちょっといいですか』話しかけることができる。 ・『ありがとうございます（した）』と会話の最後に言うことができる。
-------------------	---	--	--

(6) 教室配置等 略